

コンフィギュレータソフトウェア (形式: R2CON) 取扱説明書

目次

1. はじめに.....	3
1.1. R2CON とは.....	3
1.2. 動作環境	3
2. R2CON を使うための準備	4
2.1. R2CON のインストール.....	4
2.2. R2CON のアンインストール	4
2.3. パソコンと R2M シリーズの接続	5
2.4. R2CON の起動と終了	5
2.4.1.R2CON の起動	5
2.4.2.R2CON の終了	5
3. R2CON の使い方.....	6
3.1. オンラインでの操作	6
3.1.1. R2CON の起動.....	6
3.1.2. 通信ライン接続	6
3.1.3. 接続機種バージョン情報と設定内容の確認.....	7
3.1.4. 各チャネルの設定パラメータの変更	8
3.1.5. ダウンロード.....	10
3.1.6. コンフィギュレーションの確認.....	10
3.1.7. モニタリング.....	10
3.1.8. 通信ラインクローズ	11
3.2. オフラインでの操作	11
3.2.1. 機種を選択.....	11
3.2.2. 各チャネルのパラメータの設定.....	12
3.2.3. ファイルへの保存.....	13
4. R2CON 画面詳細.....	14
4.1. メニューバーの機能と構成	14
4.2. ツールボタンの機能と構成	14
4.3. 機種名&バージョン情報ウィンドウの機能と構成.....	15
4.4. 各チャネルの設定情報ウィンドウの機能と構成	16
4.4.1. 2H3 設定情報画面の機能と構成.....	16
4.4.2. 2G3 設定情報画面の機能と構成	17
4.5. 設定用ポップアップウィンドウの機能と構成	18
4.5.1. 入力タイプ設定画面の機能と構成	18
4.5.2. Modbus 通信設定画面の機能と構成.....	19
4.5.3. Burnout Type の設定画面の機能と構成	19
4.5.4. Filter Time Const.の設定画面の機能と構成.....	20
4.5.5. CJC Sensor(CJM)の設定画面の機能と構成	20
4.5.6. ゼロ・スパン調整の設定画面の機能と構成	21
4.5.7. 警報出力の設定画面の機能と構成	22
付録	23
付録 1 通信ポートの変更方法	23

1. はじめに

本書は、「PC レコーダ R2M シリーズ コンフィギュレータソフトウェア」の取り扱い方法、操作手順、注意事項などを説明したものです。Windows の操作や用語を理解している方を前提にしています。Windows の操作や用語については、それぞれのマニュアルを参照してください。
本書は、コンフィギュレータソフトウェアのバージョン Ver 1.0 に対応しています。

1.1. R2CON とは

PC レコーダ R2M シリーズは、チャンネルごとにセンサ、入力レンジが設定できるため、熱電対をはじめとする各種センサの直接入力が可能です。しかも、付属の非絶縁ケーブルで、Windows 対応パソコンにダイレクトに接続することができます。

R2M シリーズは、以下の 2 つのタイプがあります。

R2M-2H3 <熱電対 8 点入力タイプ>

R2M-2G3 <DC 8 点入力タイプ>

R2CON は、この PC レコーダ R2M シリーズのシステムの入力タイプ、冷接点温度補償の ON/OFF、バーンアウト、フィルタリング時定数を設定し、ユーザの要求に合致したシステムを構築するためのツールです。

R2CON には以下のような機能があります。

- ① 上位通信パラメータ設定機能
 - ・ PC レコーダ R2M シリーズのコンフィギュレーションは、「config」ポートを用いて行いますが、各種ネットワークで上位コンピュータと接続する際の Modbus 通信にかかわるパラメータ（ノードアドレス、通信速度など）の設定を行います。PC レコーダ R2M シリーズでは、ユーザの取り扱いや保守を容易にするため、多くのケースはハードウェア設定になっていますので、特殊なケース以外の通常のケースでは、使用しなくても良いようになっています。
- ② チャンネルごとのパラメータ設定機能
 - ・ R2M-2H3 では、熱電対の種類の設定が、チャンネルごとにできます。
- ③ ファイル管理機能
 - ・ チャンネルごとのパラメータ設定は、コンピュータ上のファイルにセーブすることができます。従って、コンフィギュレーション作業は、R2M リモート I/O システムと接続しないオフライン状態で編集できます。セーブしたファイルを読み出し、制御モジュールに設定することにより、効率良くかつ誤りなくコンフィギュレーションが可能になります。
- ④ モニタリング機能
 - ・ コンフィギュレーションしたデータを用いて、アナログ入力データのチェックが行えます。
- ⑤ 設定値補正／調整機能
 - ・ R2M-2H3、R2M-2G3 では、ゼロ・スパン調整が行えます。
 - ・ R2M-2H3 では、冷接点温度補償（CJM）素子交換が行えます。

1.2. 動作環境

R2CON をお使いいただくためには、以下のハードウェアが必要です。

- ・ Windows 10 (32bit/64bit) 、Windows 11 (64bit) が正しくインストールされたパソコン。
- ・ 付属ケーブル。

2. R2CON を使うための準備

このコンフィギュレータソフトウェアは、弊社ホームページよりダウンロードが可能です。
圧縮ファイルの形で配布されますので、インストールの前に解凍を行ってください。

2.1. R2CON のインストール

圧縮ファイルを解凍し、setup.exe というファイルを実行してください。
画面の操作に従って操作していただくだけでインストール作業は完了します。

注 プログラムを再インストールする場合には、2.2.で説明する R2CON のアンインストールを行ってからインストールしてください。

2.2. R2CON のアンインストール

- Windows 10 の場合
スタートメニューの「設定」→「アプリ」を開き、「アプリと機能」から行います。
プログラム一覧から「R2CON」を選択し、アンインストールボタンを押してください。
表示される画面に従い、アンインストールしてください。
- Windows 11 の場合
スタートメニューの「設定」→「アプリ」を開き、「インストールされているアプリ」から行います。
一覧から「R2CON」の「…」をクリックし、アンインストールボタンを押してください。
表示される画面に従い、アンインストールしてください。

2.3. パソコンと R2M シリーズの接続

付属のケーブルを、パソコンの COM ポートと R2M シリーズの Config ポートとを接続します。

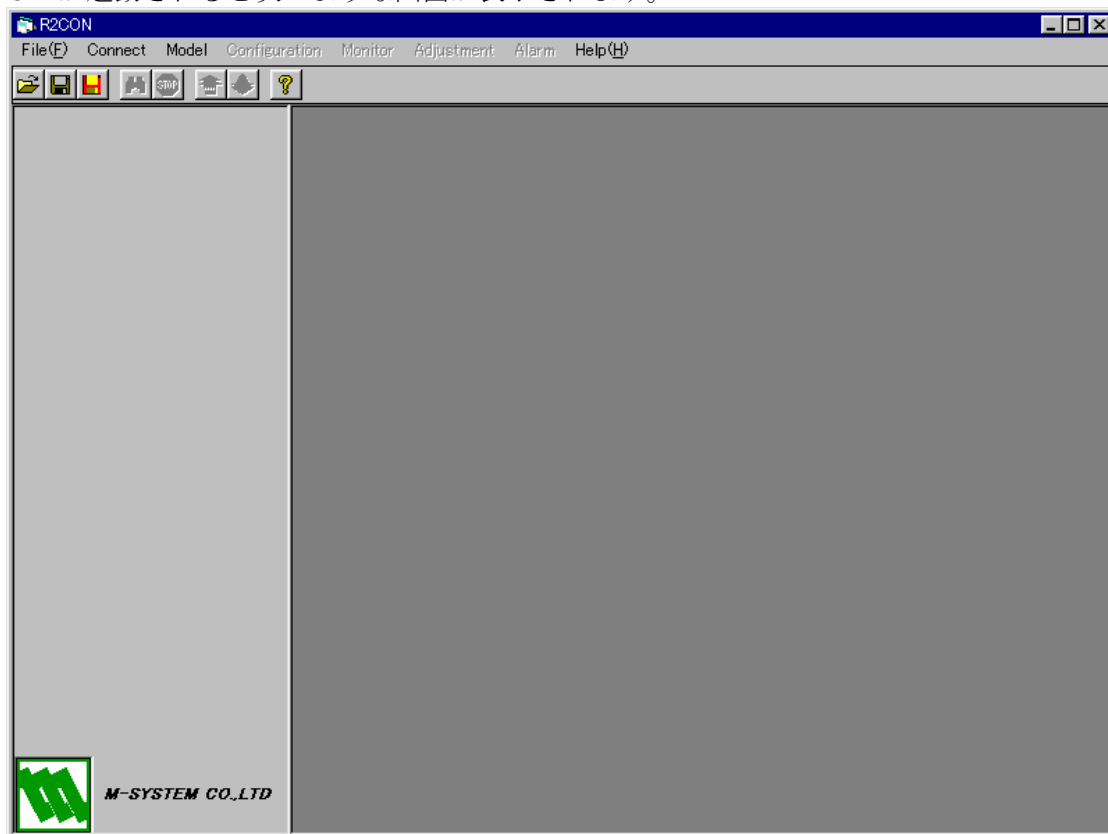
2.4. R2CON の起動と終了

(本章で示す画面／ウィンドウはイメージを示すものです。バージョンアップにより細部が変更されることがあります)

2.4.1.R2CON の起動


＜スタートメニュー＞－＜プログラム＞－＜R2CON＞を選択します。

R2CON が起動されると次のような画面が表示されます。



2.4.2.R2CON の終了

R2CON ウィンドウのツールバーの左にある＜Files＞－＜End＞ボタンをクリックすると終了します。

注 R2CON ウィンドウの右上にある閉じるボタン  をクリックしても終了しませんのでご注意ください。

3. R2CON の使い方

R2CON の操作方法を説明します。R2CON の操作は、大きく以下のように分類することができます。ここでは、操作ごとに例題を設定し、実際の R2CON のコンフィギュレーション操作を行ってみます。

i) オンラインでの操作

オンラインとは、R2M シリーズのシステムと通信ラインを接続している状態のことです。

ii) オフラインでの操作

オフラインとは、R2M シリーズのシステムと通信ラインを接続していない状態のことです。

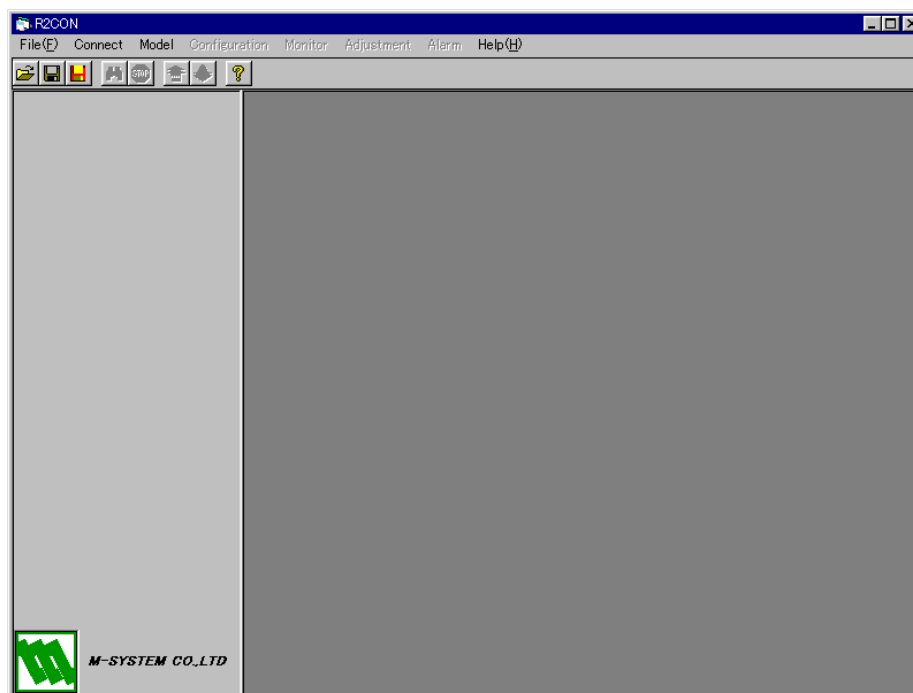
3.1. オンラインでの操作

- 1) R2CON の起動
- 2) 通信ライン接続
- 3) 接続機種バージョン情報と設定内容の確認
- 4) 各チャネルの設定パラメータの変更
- 5) ダウンロード
- 6) コンフィギュレーションの確認
- 7) モニタリング
- 8) 通信ラインクローズ

3.1.1. R2CON の起動

スタート－＜プログラム＞－＜R2CON＞を選択します。

R2CON が起動されると次のような画面が表示されます。



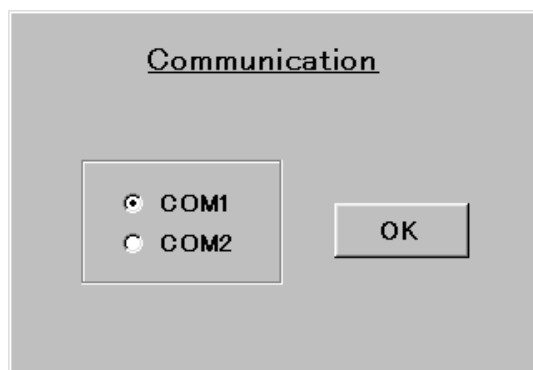
3.1.2. 通信ライン接続

R2M シリーズと接続します。図のようにメニューバーから [Connect]－[Connect] を選択します。



次のような「Communication」に関するポップアップウィンドウが表示されます。今、R2Mシリーズの電源が投入されておりかつPCのCOMライン1とR2Mシリーズのコンフィギュレータジャックとがケーブルで正しく接続されていることを確認します。そして、図のようにして<COM1>を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

COMポートはCOM1とCOM2のみサポートしています。COM3以降はCOMポートを変更してご使用ください。変更方法については付録1をご参照ください。

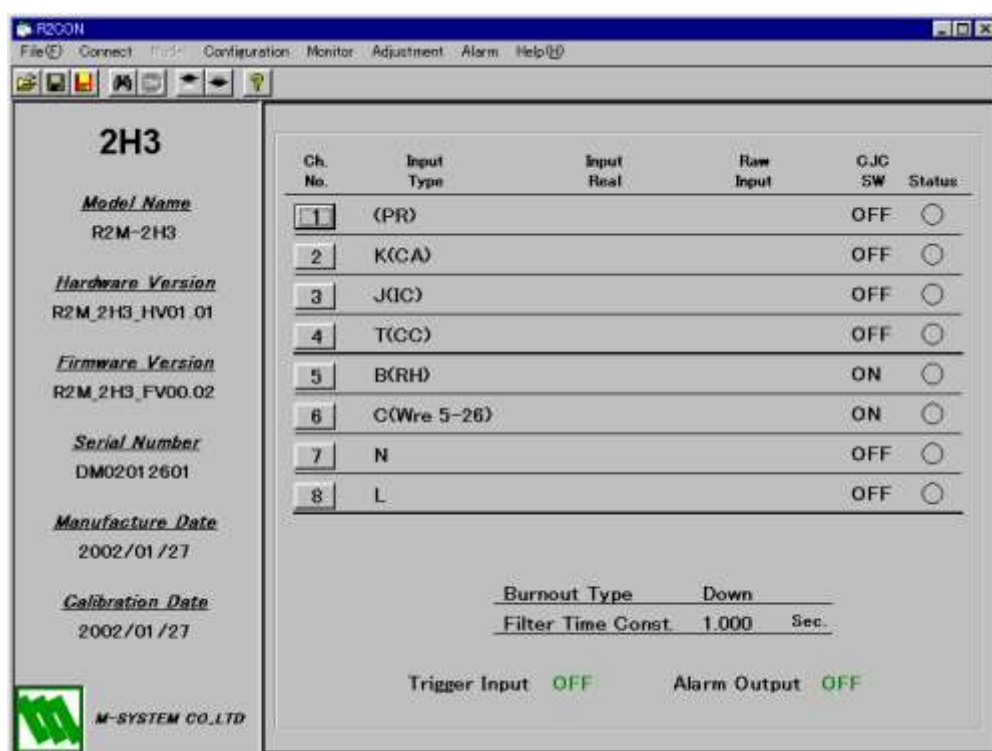


R2Mシステムとの接続が行われ、通信ラインが確立すると接続している機種バージョン情報と設定内容が表示されます。

注 接続が成功しないとメッセージが表示され、接続している機種が表示されません。この場合には、PCとR2Mシリーズシステムの接続ラインおよびPC側の通信ラインのドライバの状態を再確認ください。

3.1.3. 接続機種バージョン情報と設定内容の確認

PCとR2Mシリーズの接続が成功すると、以下のように、左側に機種名&バージョン情報、右側に設定内容が表示されます。内容をご確認ください。また、画面と詳細な機能は **4章 R2CON 画面詳細** に記述されています。今、機種 R2M-2H3 が接続しているとします。



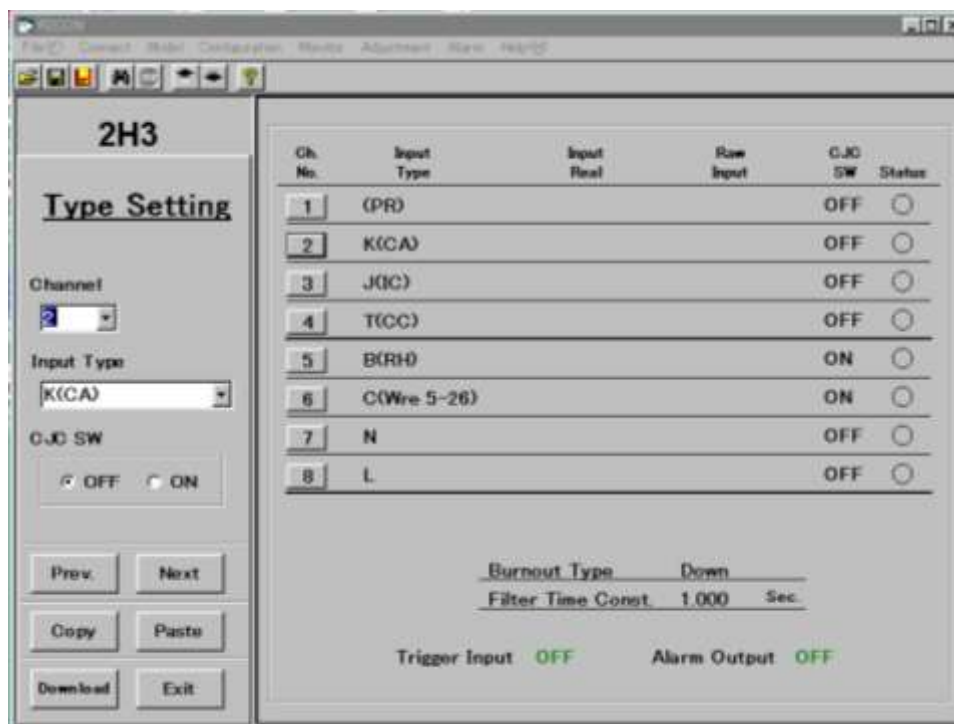
3.1.4. 各チャンネルの設定パラメータの変更

右側のウィンドウの変更するチャンネル番号のボタンをクリックすると、図のような「Type Setting」ウィンドウがポップアップするので、パラメータの変更を行います。

今、以下の二つの変更を行うとします。

- i) チャンネル番号 2 の Input Type を K(CA) → E(CRC) にする。

[2]ボタンをクリックすると、画面左端に「Type Setting」ウィンドウが表れます。



Input Type のコンボボックスで、<E(CRC)> を選択します。

右側のウィンドウのチャンネル番号 2 の Input Type が、E(CRC)に変更されたことを確認してください。

- ii) チャンネル番号 7 の設定内容をチャンネル番号 6 の設定内容と同じにします。

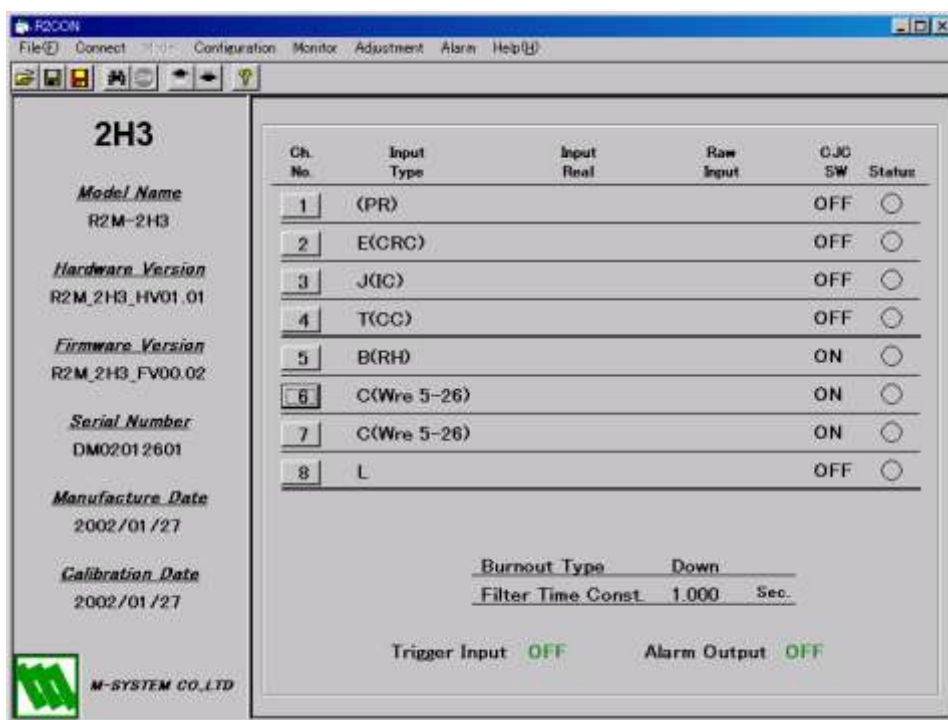
Channel のコンボボックスで、<6>を選択すると、以下のようにチャンネル番号 6 のパラメータ設定画面になります。




設定内容をコピーするために、[Copy]ボタンをクリックします。次に [Next]ボタンをクリックし、チャンネル番号 7 のパラメータ設定画面になったことを確認し、[Paste]ボタンをクリックします。以下のような画面になります。



右側のウィンドウのチャンネル番号 7 の設定内容にチャンネル番号 6 の設定内容がコピーされたことを確認してください。[Exit]ボタンをクリックすると、「Type Setting」画面が閉じます。設定画面は以下ようになります。



3.1.5. ダウンロード

チャンネル番号 2 とチャンネル番号 7 のパラメータ変更内容をまとめてコンフィギュレーションするために、メニューバーの[Configuration]-[Download]、もしくは、ツールボタンのをクリックします。


3.1.4 各チャンネルの設定パラメータの変更で変更した情報と他のすべてのチャンネルの設定情報を R2M シリーズにダウンロードします。

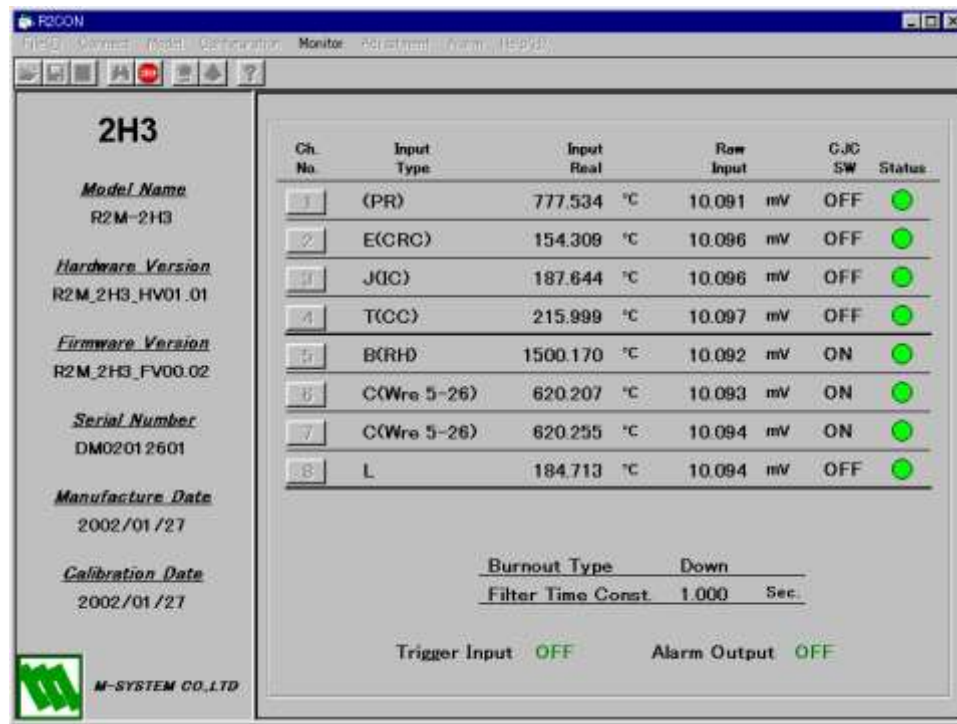
1 つのチャンネルの設定内容だけをダウンロードするには、「Type Setting」ウィンドウの[Download] ボタンをクリックします。この場合、表示しているチャンネルの情報のみコンフィギュレーションします。

3.1.6. コンフィギュレーションの確認


R2CON は、ダウンロードした後自動的にアップロードを行います。従って、現在表示されている内容が設定した内容と同じであれば、コンフィギュレーションが正しく行われたことが確認できます。現在表示されている各パラメータのデータと、設定したデータとに違いがないことを確認してください。データの量が多い場合は、ファイル管理機能をご利用ください。

3.1.7. モニタリング

モニタリング機能を使って、アナログ入力値を確認します。メニューバーの[Monitor]-[Start]もしくは、ツールボタンのをクリックします。以下のようにモニタリングが行われます。



アナログ入力値のチェックを行い、正しく動作することを確認してください。

メニューバーの[Monitor]-[Stop]もしくは、ツールボタンのをクリックし、モニタリングを停止します。

3.1.8. 通信ラインクローズ

R2M シリーズとの接続を切ります。

メニューバーから[Connect]-[DisConnect]を選択します。

3.2. オフラインでの操作

R2CON では、通信ラインが接続していない状態でも、以下のような操作を行うことができます。

- 1) 機種を選択
- 2) 各チャネルのパラメータの設定
- 3) ファイルへの保存

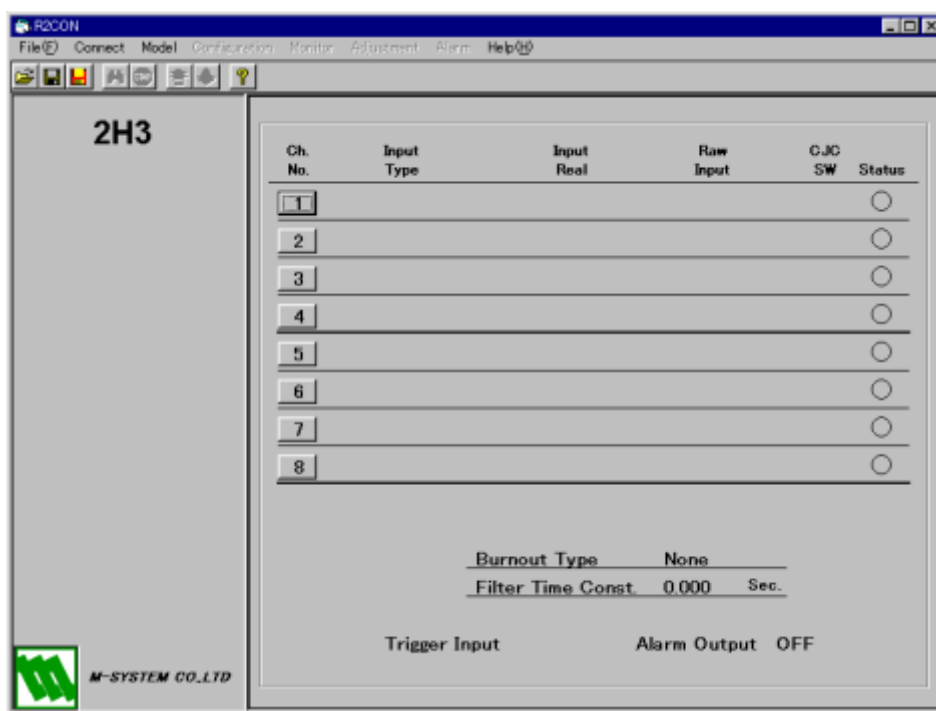
Modbus 通信の設定、CJM の設定、各チャネルのパラメータの設定内容をファイルに保存することができるため、効率良い正確な作業を行なうことができます。

3.2.1. 機種を選択

作業する機種を選択します。

新規に設定していく場合、メニューバーの[Model]-[2H3]または[Model]-[2G3]を選択します。

既存のファイルから情報を読んでくる場合、メニューバーの[File]-[Open]でファイル名を選択します。ここでは、新規に 2H3 を選択した例を示します。



3.2.2. 各チャンネルのパラメータの設定

右側のウィンドウの設定するチャンネル番号のボタンをクリックすると、図のような「Type Setting」ウィンドウがポップアップするので、パラメータの設定を行います。

今、以下の二つの設定を行うとします。

- i) チャンネル番号1の Input Type を E(CRC)にし、CJC SW を ON にする。

[1]ボタンをクリックすると、画面左端に「Type Setting」ウィンドウが表れます。



Input Type のコンボボックスで、E(CRC)を選択し、CJC SW のオプションボタンを ON にします。

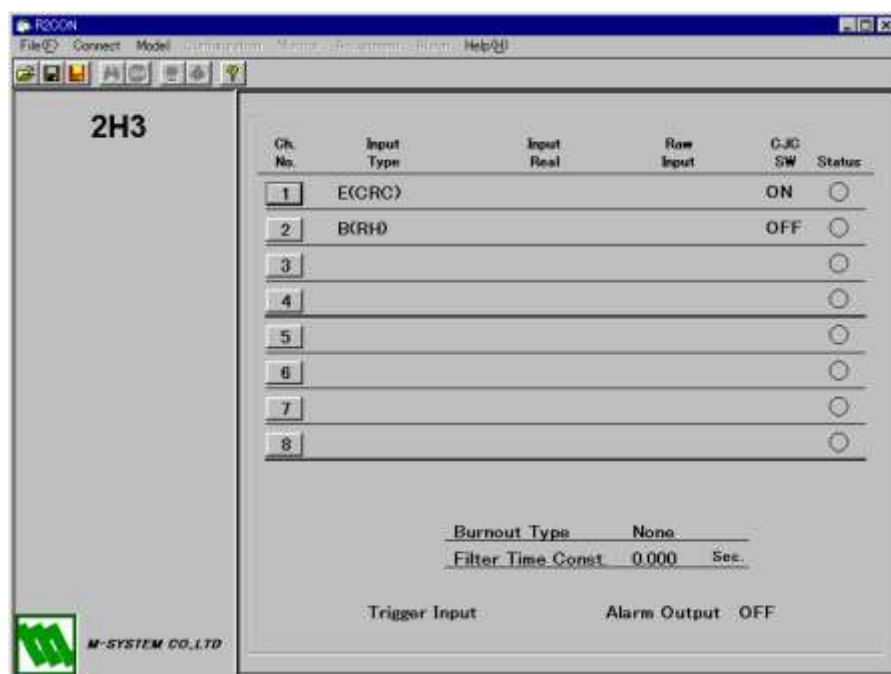
右側のウィンドウのチャンネル番号1の Input Type が E(CRC)、CJC SW が ON に設定されたことを確認してください。

- ii) チャンネル番号2の Input Type を B(RH)にし、CJC SW を OFF にする。
 [Next]ボタンで、チャンネル番号2の設定画面にします。各コンボボックスで、上記内容を設定します。以下のような設定画面になります。




右側のウィンドウのチャンネル番号2の Input Type が B(RH)、CJC SW が OFF に設定されたことを確認してください。

[Exit]ボタンをクリックすると、「Type Setting」画面が閉じます。設定画面は以下のようになります。



3.2.3. ファイルへの保存

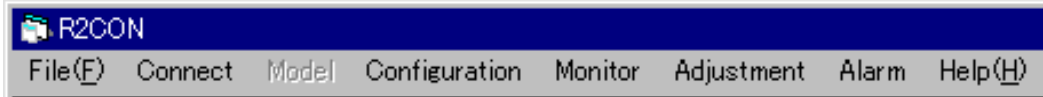
設定内容をファイルに保存します。メニューバーの[File]-[Save As]もしくは、ツールボタンのをクリックし、ファイル名を指定して保存します。

4. R2CON 画面詳細

R2CON の画面構成と詳細機能について説明します。

R2CON は、画面上部のメニューバー、ツールボタン、画面左サイドの機種名&バージョン情報ウィンドウ、右サイドの各チャネルの設定情報ウィンドウと数種のポップアップウィンドウにて構成されています。

4.1. メニューバーの機能と構成



名称1	名称2	説明
File	Open	指定したファイルを読み出しその内容を表示します。
	Save	全チャネルの設定内容を、現在オープン中のファイルに、保存します。
	Save As	全チャネルの設定内容を、ファイル名を指定して、保存します。
	End	R2CONを終了します。
Connect	Connect	通信ラインを接続します。
	DisConnect	通信ラインを切断します。
Model	2H3	2H3の設定画面を表示します。
	2G3	2G3の設定画面を表示します。
Configuration	Modbus	Modbus通信パラメータの設定画面を開きます。 (画面の機能と構成は、4.5.2を参照下さい)
	Burnout Type	バーンアウトタイプの設定画面を開きます。 (画面の機能と構成は、4.5.3を参照下さい)
	Filter Time Const.	フィルタリング時定数の設定画面を開きます。 (画面の機能と構成は、4.5.4を参照下さい)
	CJM	冷接点温度補償素子交換の設定画面を開きます。 (画面の機能と構成は、4.5.5を参照下さい)
	Upload	アップロードを開始します。
	Download	ダウンロードを開始します。
Monitor	Start	モニタリングを開始します。
	Stop	モニタリングを終了します。
Adjustment	Zero/Span	ゼロ・スパン調整の設定画面を開きます。 (画面の機能と構成は、4.5.6を参照下さい)
Alarm	Alarm out	警報出力の設定画面を開きます。 (画面の機能と構成は、4.5.7を参照下さい)
Help	Index	現在、未対応
	Contents	現在、未対応
	Version	バージョン情報を表示します。

4.2. ツールボタンの機能と構成



名称(左から順番に)	説明
Open File	指定したファイルを読み出しその内容を表示します。
Save	全チャネルの設定内容を、現在オープン中のファイルに、保存します。
Save As	全チャネルの設定内容を、ファイル名を指定して、保存します。
Start	モニタリングを開始します。
Stop	モニタリングを終了します。
Upload	アップロードを開始します。
Download	ダウンロードを開始します。
Help	現在、未対応です。

4.3. 機種名 & バージョン情報ウィンドウの機能と構成

2H3

Model Name
R2M-2H3

Hardware Version
R2M_2H3_HV01.01

Firmware Version
R2M_2H3_FV00.02

Serial Number
DM02012601

Manufacture Date
2002/01/27

Calibration Date
2002/01/27



M-SYSTEM CO.,LTD

名称	説明
Model Name	形式
Hardware Version	ハードウェアバージョン
Firmware Version	ファームウェアバージョン
Serial Number	機番
Manufacture Date	製造日
Calibration Date	校正日

4.4. 各チャネルの設定情報ウィンドウの機能と構成

4.4.1. 2H3 設定情報画面の機能と構成

Ch. No.	Input Type	Input Real	Raw Input	CJC SW	Status
1	(PR)	776.491 °C	10.074 mV	OFF	●
2	E(CRC)	153.986 °C	10.073 mV	OFF	●
3	J(IC)	187.355 °C	10.077 mV	OFF	●
4	T(CC)	215.652 °C	10.078 mV	OFF	●
5	B(RH)	1498.386 °C	10.071 mV	ON	●
6	C(Wre 5-26)	619.650 °C	10.075 mV	ON	●
7	N	320.626 °C	10.076 mV	OFF	●
8	L	184.404 °C	10.077 mV	OFF	●

Burnout Type	Down
Filter Time Const.	1.000 Sec.

Trigger Input **OFF** Alarm Output **OFF**

名称	説明
Ch. No.	チャネル番号
Input Type	入力タイプ
Input Real	入力実量値
Raw Input	変換前の入力電圧
CJC SW	冷接点補償 ON/OFFスイッチ
Status	アナログ入カステータス 緑色点当時:入力値正常 赤色点当時:入力値異常(入力レンジ範囲外)
Burnout Type	バーンアウト時の動作
Filter Time Const.	フィルタリング時定数
Trigger Input	トリガ入力
Alarm Output	警報出力

4.4.2. 2G3 設定情報画面の機能と構成

Ch. No.	Input Type	Input Real	Raw Input	Status
1	-10 to 10 V	5.000 V	5.001 V	
2	-10 to 10 V	4.999 V	5.001 V	
3	-10 to 10 V	5.001 V	5.001 V	
4	-10 to 10 V	5.001 V	5.001 V	
5	-10 to 10 V	5.001 V	5.001 V	
6	-10 to 10 V	5.001 V	5.001 V	
7	-10 to 10 V	5.000 V	5.000 V	
8	-10 to 10 V	4.547 V	5.001 V	
<p>Filter Time Const. 2.000 Sec.</p> <p>Trigger Input ON Alarm Output OFF</p>				

名称	説明
Ch. No.	チャンネル番号
Input Type	入力タイプ
Input Real	入力実量値
Raw Input	変換前の入力電圧
Status	アナログ入カステータス 緑色点当時: 入力値正常 赤色点当時: 入力値異常(入力レンジ範囲外)
Filter Time Const.	フィルタリング時定数
Trigger Input	トリガ入力
Alarm Output	警報出力

4.5. 設定用ポップアップウィンドウの機能と構成

4.5.1. 入力タイプ設定画面の機能と構成

- <Prev.> ボタン : ひとつ前のチャンネル番号とその設定を表示します。
 <Next> ボタン : ひとつ後のチャンネル番号とその設定を表示します。
 <Copy> ボタン : 表示チャンネルの設定内容をコピーします。
 <Paste> ボタン : コピーされている設定内容をペーストします。
 <Download> ボタン : 表示チャンネルの設定内容をダウンロードします。
 <Exit> ボタン : 画面を閉じます。

名称	機能	種類(2H3)
Channel	チャンネル番号	1～8
Input Type	入力タイプ	(PR)
		K(CA)
		E(CRC)
		J(IC)
		T(CC)
		B(RH)
		R
		S
		C(Wre 5-26)
		N
		U
		L
		P(Platinel2)
CJC SW	冷接点補償 ON/OFF スイッチ	

4.5.2. Modbus 通信設定画面の機能と構成

Modbus Settings(RTU)

Node Address: 1 Bit Length: 8 bit Stop Bits: 1 bit

Baud Rate: 38400 Parity: ODD Floating Type: Normal Float

Upload Download System Restart Exit

<Upload> ボタン : アップロードを開始します。
 <Download> ボタン : ダウンロードを開始します。
 <System Restart> ボタン : R2M シリーズをリスタートさせます。
 <Exit> ボタン : 画面を閉じます。

名称	機能	種類
Node Address	Modbusノードアドレス	設定されているスレーブアドレスが表示される
Baud Rate	Modbusのボーレート	9600 / 19200 / 38400 (default)
Bit Length	ビット長	8 bit
Parity	パリティビット	NONE / ODD (default) / EVEN
Stop Bits	ストップビット	1 bit (default) / 2 bit
Floating Type	浮動小数点伝送形式	Normal Float (default) / Swapped Float

4.5.3. Burnout Type の設定画面の機能と構成

Burnout Type

Down

Download Exit

<Download> ボタン : ダウンロードを開始します。
 <Exit> ボタン : 画面を閉じます。

名称	機能	種類
Burnout Type	バーンアウト時の動作	None
		Up
		Down

4.5.4. Filter Time Const.の設定画面の機能と構成

<Download> ボタン : ダウンロードを開始します。
 <Exit> ボタン : 画面を閉じます。

名称	説明
Filter Time Const.	フィルタリング時定数 単位:秒

4.5.5. CJC Sensor(CJM)の設定画面の機能と構成

<Upload> ボタン : アップロードを開始します。
 <Download> ボタン : ダウンロードを開始します。
 <Exit> ボタン : 画面を閉じます。

名称	機能
CJM Temp.	冷接点素子基準温度
CJM Voltage	冷接点素子基準電圧

4.5.6. ゼロ・スパン調整の設定画面の機能と構成

チャンネル毎に、ゼロ・スパン調整を行えます。先にゼロ調整データをセットし、その後、スパン調整データをセットして下さい。また、リセット機能は、ゼロ調整データとスパン調整データの両方を一緒にリセットするようになっています。

注 チャンネルの入力タイプを変更した場合は、ゼロ・スパン調整データが自動的にリセットされますので、再度ゼロ・スパン調整データをセットし直してください。

4.5.6.-1 ゼロ・スパン調整

The image shows a screen titled "Zero/Span Adj.". It has a "Channel" dropdown menu set to "2". Below the menu are two buttons: "Prev." and "Next". Further down are two buttons: "Zero" and "Span". At the bottom are two buttons: "Reset" and "Exit".

- | | |
|-------------|--------------------------------|
| <Prev.> ボタン | :ひとつ前のチャンネル番号に対して設定できるようになります。 |
| <Next> ボタン | :ひとつ後のチャンネル番号に対して設定できるようになります。 |
| <Zero> ボタン | :ゼロ調整の設定画面を開きます。 |
| ボタン | :スパン調整の設定画面を開きます。 |
| <Reset> ボタン | :ゼロ・スパン調整をリセットします。 |
| <Exit> ボタン | :画面を閉じます。 |

4.5.6.-2 ゼロ調整

The image shows a screen titled "Zero Adj. Setting". It has three input fields: "Input Real" with the value "100.147" and a unit "°C", "Offset data" with the value "-4.149" and a unit "°C", and "Real data" with the value "100" and a unit "°C". Below these fields are two buttons: "OK" and "Exit".

- | | |
|------------|------------------|
| <OK> ボタン | :ゼロ調整データをセットします。 |
| <Exit> ボタン | :画面を閉じます。 |

名称	機能
Input Real	入力実量値
Offset data	ゼロ点のオフセット値
Real data	ゼロ点の真値

4.5.6.-3 スパン調整

Span Adj. Setting

Input Real
-13.940

Span coefficient
36.709 %

Real data
-14.1

OK Exit

<OK> ボタン : スパン調整データをセットします。
 <Exit> ボタン : 画面を閉じます。

名称	機能
Input Real	入力実量値
Span coefficient	スパン調整値から計算されたスパン係数
Real data	スパン点の真値

4.5.7. 警報出力の設定画面の機能と構成

警報出力の模擬テストが行えます。

Alarm Output

☐ ON

☒ OFF

Download Exit

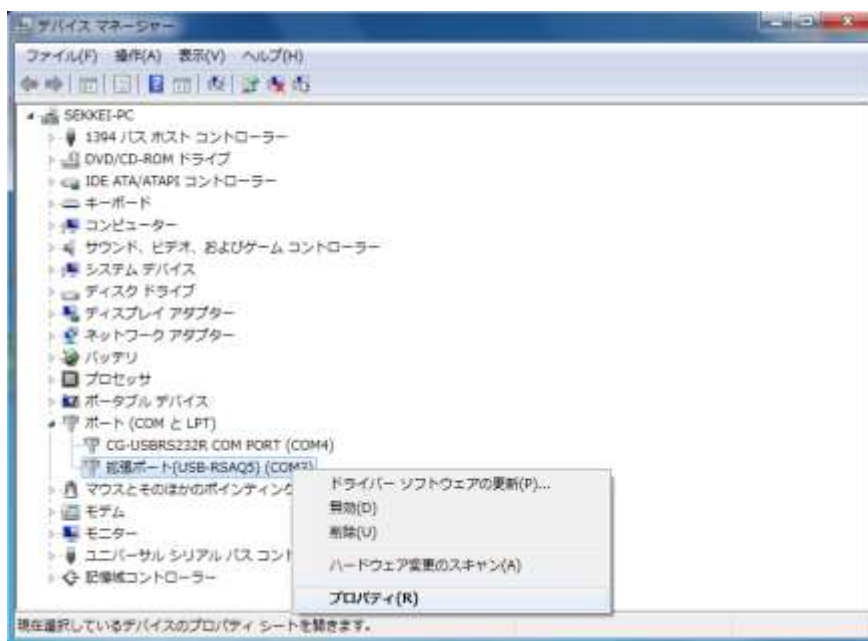
<Download> ボタン : ダウンロードを開始します。
 <Exit> ボタン : 画面を閉じます。

付録

付録 1 通信ポートの変更方法

通信ポートの変更方法を説明します。(画面は Windows 7 です。)

- ① [コントロールパネル] - [システム] からシステムのプロパティを開き、[ハードウェア] タブの [デバイスマネージャ] ボタンをクリックします。
- ② [ポート(COM/LPT)] の変更する通信ポートを右クリックし、プロパティを表示します。



- ③ [ポートの設定] タブの [詳細] ボタンをクリックします。



④ [COM ポート番号] を変更し、OK ボタンを押します。

